

IBM

@server

326 Type 8848

ユーザーズ・ガイド





@server

326 Type 8848

ユーザーズ・ガイド

お願い:

本書および本書がサポートする製品をご使用になる前に、 33 ページの『付録 B. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： 326 Type 8848
User's Guide

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

安全について	v
第 1 章 @server 326 Type 8848 サーバーの概要	1
関連資料	1
本書で使用する注記	2
機能および仕様	3
サーバーが提供する機能	4
信頼性、可用性、保守容易性	5
サーバーのコントロール、LED、および電源	6
前面図	6
背面図	9
サーバーの電源機構	10
第 2 章 サーバーの構成	13
Configuration/Setup Utility プログラムの使用	14
Configuration/Setup Utility プログラムの始動	14
Configuration/Setup Utility メニュー選択項目	14
パスワード	18
BIOS コードの更新	21
コンソール・リダイレクトの構成	21
ServerGuide Setup and Installation CD の使用	22
ServerGuide の特徴	22
セットアップおよび構成の概要	23
標準的なオペレーティング・システムのインストール	23
ServerGuide を使用しないオペレーティング・システムのインストール	24
RAID 構成プログラムの使用	25
LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムの使用	26
ServeRAID マネージャーの使用	27
Gigabit Ethernet コントローラーの構成	27
ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新プログラムの使用	28
ベースボード管理コントローラー LAN 接続の構成	29
付録 A. ヘルプおよび技術援助の入手	31
依頼する前に	31
資料の使用	31
ヘルプおよび情報を WWW から入手する	32
ソフトウェア・サービスとサポート	32
ハードウェア・サービスとサポート	32
付録 B. 特記事項	33
当版に関する特記事項	33
商標	34
サーバーの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	35
重要事項	35
製品のリサイクルと廃棄	36
バッテリー回収プログラム	36
電磁波放出の注記	37
情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示	37
電源コード	37

索引 41

安全について

Before installing this product, read the Safety Information.

قبل تركيب هذا المنتج، يجب قراءة الملاحظات الأمنية

Antes de instalar este produto, leia as Informações de Segurança.

在安装本产品之前，请仔细阅读 **Safety Information**
(安全信息)。

安裝本產品之前，請先閱讀「安全資訊」。

Prije instalacije ovog produkta obavezno pročitajte Sigurnosne Upute.

Před instalací tohoto produktu si přečtěte příručku bezpečnostních instrukcí.

Læs sikkerhedsforskrifterne, før du installerer dette produkt.

Lees voordat u dit product installeert eerst de veiligheidsvoorschriften.

Ennen kuin asennat tämän tuotteen, lue turvaohjeet kohdasta Safety Information.

Avant d'installer ce produit, lisez les consignes de sécurité.

Vor der Installation dieses Produkts die Sicherheitshinweise lesen.

Πριν εγκαταστήσετε το προϊόν αυτό, διαβάστε τις πληροφορίες ασφάλειας
(safety information).

לפני שתתקינו מוצר זה, קראו את הוראות הבטיחות.

A termék telepítése előtt olvassa el a Biztonsági előírásokat!

Prima di installare questo prodotto, leggere le Informazioni sulla Sicurezza.

製品の設置の前に、安全情報をお読みください。

본 제품을 설치하기 전에 안전 정보를 읽으십시오.

Пред да се инсталира овој продукт, прочитајте информацијата за безбедност.

Les sikkerhetsinformasjonen (Safety Information) før du installerer dette produktet.

Przed zainstalowaniem tego produktu, należy zapoznać się
z książką "Informacje dotyczące bezpieczeństwa" (Safety Information).

Antes de instalar este produto, leia as Informações sobre Segurança.

Перед установкой продукта прочтите инструкции по технике безопасности.

Pred inštaláciou tohto zariadenia si pečítajte Bezpečnostné predpisy.

Pred namestitvijo tega proizvoda preberite Varnostne informacije.

Antes de instalar este producto, lea la información de seguridad.

Läs säkerhetsinformationen innan du installerar den här produkten.

重要:

本書の注意と危険に関する注記には、番号が付けられています。この番号は、英語版の注意と危険の注記に対して、「IBM Safety Information」に記載の翻訳版の注意と危険の注記を相互参照するために使用します。

たとえば、番号 1 で始まる注意の場合、その注意事項の訳文は、「IBM Safety Information」資料に記載の安全 1 の下にあります。

作業を実施する前に、必ず本書の注意と危険に関する注記をすべて読んでください。装置をインストールする前には、ご使用のサーバーまたはオプションの装置に付属するすべての安全上の注意も読んでください。

安全 1:



危険

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電流は危険です。

感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置も正しく配線されたコンセントに接続してください。
- 信号ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続された装置の取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の表の説明に従ってケーブルの接続および切り離しを行ってください。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします。
2. 最初に、すべてのケーブルを装置に接続します。
3. 信号ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードを電源コンセントに接続します。
5. 装置の電源をオンにします。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします。
2. 最初に、電源コードをコンセントから取り外します。
3. 信号ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルを装置から取り外します。

安全 2:



注意:

リチウム・バッテリーを交換する場合は、**IBM** 部品番号 **33F8354** またはメーカーが推奨するタイプと同等のバッテリーのみを使用してください。システムにリチウム・バッテリーが入ったモジュールがある場合、そのモジュールの交換には同じメーカーの同じモジュール・タイプのみを使用してください。バッテリーにはリチウムが含まれており、適切な使用、扱い、廃棄をしないと、爆発するおそれがあります。

次のことはしないでください。

- 水に投げ込む、あるいは浸す
- **100°C (華氏 212 度)** 以上に過熱
- 修理または分解

バッテリーを廃棄する場合は地方自治体の条例に従ってください。

安全 3:



注意:

レーザー製品 (CD-ROM、DVD ドライブ、光ファイバー装置、または送信機など) を取り付ける場合には、以下のことに注意してください。

- レーザー製品のカバーを取り外さないでください。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。



危険

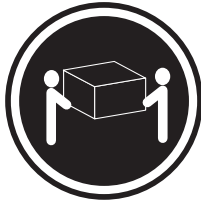
一部のレーザー製品には、クラス **3A** またはクラス **3B** のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次のことに注意してください。

カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。



クラス 1 レーザー製品
Laser Klasse 1
Laser Klass 1
Luokan 1 Laserlaite
Appareil À Laser de Classe 1

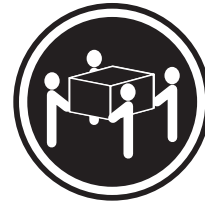
安全 4:



≥18 kg



≥32 kg



≥55 kg

注意:

装置を持ち上げる場合には、安全に持ち上げる方法に従ってください。

安全 5:



注意:

装置の電源制御ボタンおよび電源機構の電源スイッチは、装置に供給されている電流をオフにするものではありません。装置には 2 本以上の電源コードが使われている場合があります。装置から完全に電気を取り除くには給電部からすべての電源コードを切り離してください。



安全 8:



注意:

電源機構または次のラベルが貼られている部分のカバーは決して取り外さないでください。



このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。これらのコンポーネントの内部には、保守が可能な部品はありません。これらの部品に問題があると思われる場合はサービス技術員に連絡してください。

安全 10:



注意:

ラックに装着された装置の上には 82 kg を超えるものは置かないでください。



>82 kg

危険: 本製品のコードおよび本製品用のアクセサリに付いているコードを扱う際には、カリフォルニア州においてがん、先天性異常、または他の生殖系障害の原因となることが疑われている化学物質の鉛が露出しているため注意してください。コードを扱った後は手を洗ってください。

第 1 章 @server 326 Type 8848 サーバーの概要

IBM® @server 326 Type 8848 サーバーは、高さ 1 U¹の大容量ネットワーク・トランザクション処理用のラック・モデル・サーバーです。この高性能な対称多重処理 (SMP) サーバーは、高度なマイクロプロセッサ性能、柔軟性のある入出力 (I/O)、および高い管理能力を必要とするネットワーク環境に適する、理想的なものです。

サーバーの設計においては、パフォーマンス、使いやすさ、信頼性、および拡張機能などが、主要な事項として考慮されました。これらの設計機能を用いることによって、ユーザーは、今日必要とされるニーズに合わせてシステム・ハードウェアをカスタマイズしたり、将来に備えて柔軟性のある拡張機能を準備したりすることができます。

このサーバーには限定保証が適用されます。保証の内容について詳しくは、「インストール・ガイド」の保証に関する付録を参照してください。

ユーザーは、サーバーについての最新の情報を <http://www.ibm.com/pc/us/eserver/opteron/> で得られます。ユーザーは、他の IBM サーバーについての情報を <http://www.ibm.com/eserver/xseries/> で得られます。

サービス、および援助情報については、31 ページの『付録 A. ヘルプおよび技術援助の入手』を参照してください。

関連資料

このユーザーズ・ガイド では、サーバーの機能、サーバーの構成、およびヘルプを得る方法などを含む、サーバーについての一般情報を記述します。このユーザーズ・ガイド に加えてご使用のサーバーについて、次の資料が提供されています。

- *インストール・ガイド*

この印刷資料には、該当のサーバーのセットアップに関する説明や、オプションのインストールについての説明が記載されています。

- *オプション・インストール・ガイド*

この資料は、IBM @server Documentation CD に PDF で提供されています。ここでは、該当のサーバーがサポートするオプションの装置の取り付け、取り外し、および接続に関して、詳しい説明が行われます。

- *Safety Information*

この資料は、IBM @server Documentation CD に PDF で提供されています。この資料には、注意および危険についての翻訳された注記が記載されています。この文書に記載された注意と危険の注記にはそれぞれ番号が割り当てられており、これを使用して、*Safety Information* 資料の中にご使用の言語で書かれた対応する注記を見付けることができます。

1. ラックは、1.75 インチごとの垂直増分でマークされます。各増分は、ユニットまたは“U”と呼ばれます。1 U の装置は、高さが 1.75 インチです。

- ラック取り付け手順

この印刷資料には、サーバーをラックに取り付ける時の手順が記載されています。

- ハードウェア・メンテナンス・マニュアルおよびトラブルシューティング・ガイド

この資料は、IBM *@server Documentation CD* に PDF で提供されています。ここでは、ユーザーが問題を解決するときに役立てたり、サービス技術員が参考にしたたりする情報が記載されています。

サーバーのモデルによっては、追加資料が IBM *@server Documentation CD* の中に提供される場合もあります。

サーバーには、サーバーの付属資料に記述されていない機能が含まれていることがあります。資料は、これらの機能に関する情報を収録するためにときどき更新されることがあり、また、サーバーの資料に収録されていない追加情報を記述するために、技術上の更新が行われることもあります。これら更新情報は、IBM Web サイトで使用可能です。更新済み資料およびテクニカル更新情報をチェックするには、以下のステップを実行します。

1. <http://www.ibm.com/pc/support/> にアクセスします。
2. 「Learn」セクションの「Online publications」をクリックします。
3. 「Online publications」ページの「Brand」フィールドで、「Servers」を選択します。
4. 「Family」フィールドで「@server 326」を選択します。
5. 「Continue」をクリックします。

本書で使用する注記

本書の「注意」および「危険」に関する注記は、IBM *@server Documentation CD* に収められている複数言語による「Safety Information」資料にも記載されています。それぞれの注記には番号が付けられており、「Safety Information」資料で対応する注記を参照できます。

本書では、次の注記が使用されます。

- **注:** これらの注記には、重要なヒント、説明、助言が書かれています。
- **重要:** これらの注記は、不都合な、または問題のある状態を避けるのに役立つ情報または助言が書かれています。また、これらの注記は、プログラム、装置、またはデータを損傷するおそれのあることを示します。「重要」の注記は、損傷を起こすおそれのある指示や状態の記述の直前に書かれています。
- **注意:** これらの注記は、人体に対して危険が生じるおそれがある状態を示します。「注意」の注記は、危険が生じる可能性のある手順または状態の記述の直前に書かれています。
- **危険:** これらの注記は、人体に致命的または重大な危険を及ぼすおそれのある状況を示します。「危険」の注記は、致命的あるいはきわめて危険となりうる手順のステップまたは状況の直前に書かれています。

機能および仕様

以下の表には、ご使用のサーバーの機能と仕様がまとめられています。ご使用のサーバーのモデルによっては、一部の機能が備わっていない場合や一部の仕様が適用されない場合があります。

表 1. 機能および仕様

<p>マイクロプロセッサ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • AMD Opteron™ プロセッサ • 1024 KB レベル 2 キャッシュ <p>注: サーバーのマイクロプロセッサのタイプおよび速度を判別するには、Configuration/Setup Utility プログラムを使用する。</p> <p>メモリー:</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイプ: エラー訂正コード (ECC)、double-data rate (DDR) SDRAM、registered DIMM (Chipkill™ 付き) メモリー保護 <ul style="list-style-type: none"> - 最小: 1 GB - 最大: 16 GB • 4 個のスロット、インターリーブド (標準マイクロプロセッサ付き) (DIMM は 2 つ 1 組のペアで取り付ける必要があります) • 4 個の追加スロット、インターリーブド (オプションのマイクロプロセッサ付き) (DIMM は 2 つ 1 組のペアで取り付ける必要があります) <p>ドライブ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD-ROM: スリム IDE (標準) • ハード・ディスク・ドライブ: <ul style="list-style-type: none"> - スリムハイト 3.5 ドライブ、ホット・スワップ SCSI または非ホット・スワップ・シリアル ATA (SATA) (ドライブの容量と速度はモデルにより異なる) - 最大: 2 個 <p>拡張スロット:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2 個。以下のいずれかのジャンパー制御構成で使用される。 <ul style="list-style-type: none"> - 100 MHz/64 ビット PCI-X -- 最大 100 MHz/64 ビット PCI-X アダプターをサポートする、フルサイズとハーフサイズのアダプター・スロットが各 1 個 - 133 MHz/64 ビット PCI-X (デフォルト) -- 1 個の 133 MHz/64 ビット PCI-X アダプターをサポートするフルサイズのアダプター・スロット 1 個 (ハーフ・サイズのスロットは利用不能) • 3.3 V またはユニバーサル・アダプターだけをサポートする • PCI バス 3 上 	<p>ビデオ・コントローラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム・ボード上の ATI RageXL ビデオ・コントローラー • SVGA と互換 • 8 MB の SDRAM ビデオ・メモリー <p>電源機構:</p> <p>1 つの 411 ワット電源 (115 ~ 230 V AC)</p> <p>サイズ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高さ: 43 mm • 奥行き: 660 mm • 幅: 440 mm • 重量: フル構成時で約 12.7 kg <p>内蔵機能:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベースボード管理コントローラー • 1 個の単一チャネル LSI Ultra320 SCSI コントローラー • 2 つの Broadcom 10/100/1000 イーサネット・コントローラー (デュアル・ポート設計) (Wake on LAN®) • USB ポート 4 個 • 1 つのシリアル・ポート • 1 つのビデオ・ポート <p>注: ベースボード管理コントローラーは、サービス・プロセッサ (SVP) としても知られていません。</p> <p>音響放出ノイズ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 公称音響出力、アイドル時: 6.5 ベル • 公称音響出力、動作時: 6.5 ベル <p>環境:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 周囲温度: <ul style="list-style-type: none"> - サーバー電源オン時: 10°~35° C。高度: 0 ~ 914 m - サーバー電源オン時: 10°~32° C。高度: 914 m~2133 m - サーバー電源オフ時: 10°~43° C。最大高度: 2133 m • 湿度: <ul style="list-style-type: none"> - サーバー電源オン時: 8%~80% - サーバー電源オフ時: 8%~80% • 排気量比率: <ul style="list-style-type: none"> - 最小: 28 CFM - 最大: 47 CFM 	<p>放熱量:</p> <p>デュアル・マルチプロセッサ・構成に対して 1 時間あたりの発熱量 (英国熱量単位 (Btu))</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最小構成: 409 Btu (120 ワット) • 最大構成: 1366 Btu (400 ワット) <p>電源入力:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正弦波入力 (50~60 Hz) が必要 • 低電圧入力: <ul style="list-style-type: none"> - 最低: 100 V AC - 最高: 127 V AC • 高電圧入力: <ul style="list-style-type: none"> - 最低: 200 V AC - 最高: 240 V AC • 入力キロボルト・アンペア (kVA) (近似値): <ul style="list-style-type: none"> - 最小: 0.120 kVA - 最大: 0.400 kVA <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電力消費量および発熱量は、インストールされているオプション機構の数およびタイプ、および使用されている電源管理オプション機構に依存します。 2. これらのレベルは、ANSI (米国規格協会) S12.10 および ISO 7779 に指定された手順に基づく管理された音響環境で測定されて、ISO 9296 に従って報告されます。特定の位置の実際の音圧レベルは、部屋の反響および他の近くの雑音ソースにより、記述されている平均値を超える場合があります。宣言されている音力レベルは、上限をしめして、このレベル以下で多数のコンピューターは作動可能です。
---	--	---

サーバーが提供する機能

このサーバーは、優れたマイクロプロセッサのパフォーマンスが必要とされるような、データ・ストレージ、メモリー管理、システム管理およびネットワーク環境において先進技術を利用しています。このサーバーには、次の機能およびテクノロジーが含まれています。

- **ベースボード管理コントローラー**

ベースボード管理コントローラーには、サーバーに対する環境モニター機能があります。環境条件がしきい値を超えたとき、あるいはシステム・コンポーネントに障害があったとき、ベースボード管理コントローラーは、対応するシステム・ボード LED を点灯し、問題のあった個所を示します。クリティカル・エラーは、エラー・ログにも組み込まれます。ベースボード管理コントローラーは、サービス・プロセッサ (SVP) としても知られています。

- **IBM 拡張診断 CD**

サーバーには、*IBM 拡張診断 CD* が同梱されていて、この CD を使用して問題を診断できます。

- **IBM Director**

IBM Director はワークグループ・ハードウェア管理ツールであり、これを使用して複数のサーバーを集中管理できます。詳しくは、*IBM Director CD* の IBM Director の資料を参照してください。

- **IBM ServerGuide™ Setup and Installation CD**

ServerGuide Setup and Installation CD は、このサーバーに付属の CD であり、サーバーをセットアップおよびインストールを容易にします。ServerGuide プログラムにより、取り付けられているハードウェア・オプションが検出され、適切な構成プログラムおよびデバイス・ドライバが提供されます。*ServerGuide Setup and Installation CD* について詳しくは、22 ページの『ServerGuide Setup and Installation CD の使用』を参照してください。

- **統合ネットワーク・サポート**

サーバーには、2 個の Broadcom Gigabit Ethernet コントローラーが実装されていて、これらのコントローラーが 10-Mbps、100-Mbps、または 1-Gbps ネットワークへの接続をサポートします。詳細は、27 ページの『Gigabit Ethernet コントローラーの構成』を参照してください。

- **大容量のシステム・メモリー**

このサーバーのメモリー・バスは、最大 16 GB までのシステム・メモリーをサポートします。メモリー・コントローラーは、最大 8 個の業界標準 PC2700 または PC3200、3.3 V、184 ピン、8 バイト、registered、double-data-rate 同期ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー (DDR SDRAM) デュアル・インライン・メモリー・モジュール (DIMM) に対するエラー修正コード (ECC) のサポートを行います。DIMM がすべてタイプ x4 の場合、メモリー・コントローラーは、Chipkill メモリー保護も行います。Chipkill メモリー保護は、DIMM 上の単一のチップが故障した場合にシステムを保護するテクノロジーです。

さらに、メモリー・コントローラーには、メモリー・マイクロプロセッサ間の処理効率を改善する組み込みのテクノロジーが備わっています。

- **対称多重処理 (SMP)**

このサーバーは、最高 2 つまでの AMD Opteron マイクロプロセッサをサポートします。ご使用のサーバーにはマイクロプロセッサが 1 つ搭載されていますが、追加のマイクロプロセッサを取り付けることにより、パフォーマンスを高め、SMP の機能を提供することができます。

- **システム管理機能**

ご使用のサーバーには、サーバーをリモート側で管理・制御するために、ネットワーク管理者またはファイル・サーバーが使用できる機能があります。

ご使用のサーバーが、リモート管理アダプター II で管理される高機能システム管理 (ASM) 相互接続ネットワークに接続されている場合、または、サーバーにオプションのリモート管理アダプター II がインストールされている場合、システムの状態を表示する; サーバーをオンにする、オフにする、再始動する; エラー・ログを表示する; 重要プロダクト・データを表示する; ASM 相互接続ネットワークを介してアラートを送る、などを行うことができます。オプションのリモート管理アダプター II を注文される場合は、IBM 営業担当員、または正式な代理店にお問い合わせください。

注: IBM は、将来このサーバーでリモート管理アダプター II をサポートする予定です。この機能の使用可能性については、<http://www.ibm.com/pc/us/compat/> を参照してください。

信頼性、可用性、保守容易性

サーバーの設計上で最も重要な 3 つの要素は、信頼性 (reliability)、可用性 (availability)、および保守容易性 (serviceability) (RAS) です。RAS 機能は、該当のサーバーに保管されているデータの保全性、必要なときにコンピューターが使用可能であること、問題の診断と修復が容易であることを保証する上で役立ちます。

ご使用のサーバーには、次の RAS 機能があります。

- 拡張構成および電力インターフェース (ACPI)
- 電源障害後の自動再始動
- ベースボード管理コントローラー (サービス・プロセッサ)
- 基本入出力システム (BIOS) コードのブート・ブロック
- Chipkill メモリー保護
- 速度制御付きの冷却ファン
- 24 時間体制のカスタマー・サポート・センター ²
- 巡回冗長検査 (CRC) SCSI データ・バス
- 診断 CD
- システム・ボード上の診断 LED

2. サービス時間帯は国によって異なります。応答にかかる時間は、問い合わせの集中する数およびその性格によって異なります。

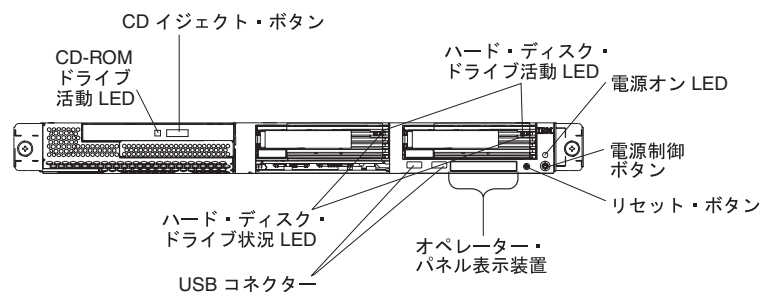
- イーサネット・アダプターおよび RAID アダプターの診断サポート
- SPD (serial presence detect) による DDR SDRAM (Double-data-rate synchronous dynamic RAM)
- エラー訂正コード (ECC) メモリー
- エラー・コードとエラー・メッセージ
- フェイルオーバー・イーサネット・サポート
- ホット・スワップ・ドライブ・ベイ (一部のモデル)
- メニュー方式のセットアップ、システム構成、RAID 構成、および診断プログラム
- マイクロプロセッサ組み込み自己テスト (BIST)
- 温度、電圧、およびファンの速度のモニター・サポート
- PCI (Peripheral component interconnect) バス・パリティ
- POST (電源オン自己診断テスト)
- ハード・ディスク上の障害予知® (PFA) 機能
- 読み取り専用メモリー (ROM) チェックサム
- リモート・システム問題分析サポート
- システム・ボード上の状況 LED
- システム・エラー・ログ
- アップグレード可能な BIOS コードおよびベースボード管理コントローラー・ファームウェア
- 重要プロダクト・データ (VPD)。 (リモート側での保守を容易にするために、相補型金属酸化膜半導体 (CMOS) メモリーに保管されているシリアル番号の情報や置換パーツ番号など)
- Wake on LAN 機能

サーバーのコントロール、LED、および電源

このセクションでは、各種のコントロールと発光ダイオード (LED) について、およびサーバーのオン/オフ切り替えについて説明します。

前面図

次の図は、サーバーの前面にあるコントロール、LED、およびコネクタを示したものです。



CD-ROM ドライブ・アクティビティ LED: この LED が点灯した場合、CD-ROM ドライブが使用中であることを示します。

CD イジェクト・ボタン: このボタンを押して、CD を CD-ROM ドライブから取り出します。

ハード・ディスク・ドライブのアクティビティ LED: これらの LED が点滅しているときは、関連する SCSI ハード・ディスク・ドライブが使用中であることを示しています。

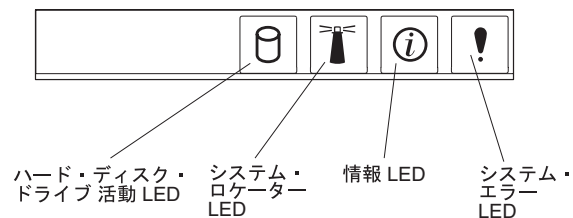
電源オン LED: この LED が点灯し、点滅していない場合、サーバーに電源が入れています。この LED が点滅しているときは、サーバーがオフになっているが AC 給電部にまだ接続されたままです。この LED がオフになっているときは、AC 電源が入っていないか、電源機構または LED 自体が故障しています。電源オン LED は、サーバーの背面にもあります。

注: この LED がオフになっているときは、サーバーに電源がないことを意味しているわけではありません。LED が焼き付いていることがあります。サーバーからすべての電源を除去するには、電気コンセントから電源コードを抜く必要があります。

電源制御ボタン: このボタンを押して、手動で電源をオンにしたり、オフにしたりします。

リセット・ボタン: サーバーをリセットし、自己診断テスト (POST) を実行するときに、このボタンを押します。このボタンを押すには、ペンやまっすぐにしたペーパー・クリップの先を使用する必要があります。

オペレーター・パネル表示装置: このパネル表示装置には、LED があります。次の図は、オペレーター・パネル表示装置にある LED を示したものです。



次の LED は、オペレーター・パネル表示装置にあります。

- **ハード・ディスク・ドライブ・アクティビティ LED:** この LED が点灯した場合は、ハード・ディスク・ドライブのいずれかが使用中であることを示します。
- **システム・ロケータ LED:** 他のサーバーが多数ある場所の場合に、このブルーの LED を用いて、このサーバーを視覚的に探し出します。サーバーが IBM Director をサポートする場合、この IBM Director を用いて、この LED をリモート側で点灯させることもできます。
- **情報 LED:** この LED が点灯しているときは、重大でないイベントが起こったこと、およびエラー・ログに記録されていることを示しています。システム・ボード上の障害のあるコンポーネントの近くの LED も点灯し、エラーが特定されません。

- **システム・エラー LED:** この LED が点灯した場合は、システム・エラーが起こったことを示します。システム・エラー LED は、サーバーの背面にもあります。システム・ボード上の 障害のあるコンポーネントの近くの LED も点灯し、エラーが特定されます。

USB コネクター: USB 装置をこれらのコネクターに接続します。

注:

1. キーボードまたはマウスをこのサーバーに接続する場合は、USB キーボードまたは USB マウスを使用する必要があります。

USB キーボードをインストールした後、Configuration/Setup Utility プログラムを使用して、キーボードレス・オペレーションを可能にし、始動中に POST エラー・メッセージ 301 が表示されるのを防ぐ必要があります。USB キーボードの詳細、およびサーバーへの接続については、USB キーボードに同梱の資料を参照してください。Configuration/Setup Utility プログラムの使用の詳細については、13 ページの『第 2 章 サーバーの構成』を参照してください。

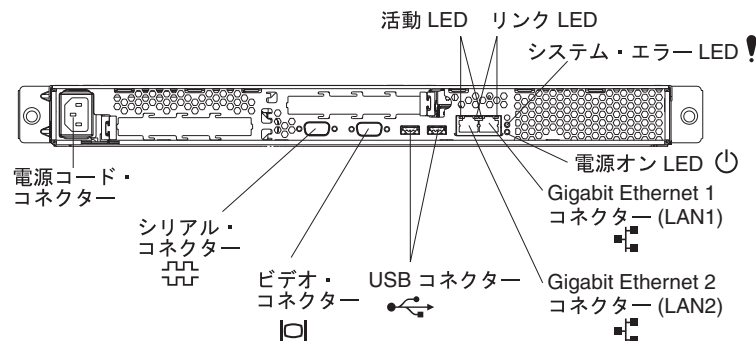
2. 次の場合は、外付け USB ディスケット・ドライブを使用する必要があります。
 - サーバーにディスク・ドライブを取り付ける。
 - 最新のベースボード管理コントローラー・ファームウェアを含む更新ディスクの作成が必要である。(28 ページの『ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新プログラムの使用』を参照してください。)
 - 最新のサーバー BIOS コードを含む更新ディスクの作成が必要である(21 ページの『BIOS コードの更新』を参照してください)。

ハード・ディスク・ドライブの状況 LED: サーバーのモデルによっては、各ホット・スワップ・ハード・ディスクに状況 LED が付いています。ドライブの状況 LED が連続的に点灯している場合、そのドライブには障害があります。点滅している状況 LED の解釈は、次のようにホット・スワップ・ドライブに接続されている SCSI コントローラーによって決まります。

- ドライブが RAID 機能付き内蔵 SCSI コントローラーに接続されている場合、点滅する状況 LED は、ドライブがミラーリングされた対の第 2 のドライブであり、ドライブが同期されつつあることを示します。
- ドライブがオプションの ServeRAID™ コントローラーに接続されている場合、緩慢な点滅 (毎秒 1 回) の状況 LED はドライブが再作成されつつあることを示します。LED が素早く (1 秒間に 3 回) 点滅しているときは、コントローラーがドライブを識別しています。

背面図

次の図は、サーバーの背面にあるコネクタおよび LED を示しています。



電源コード・コネクタ: 電源コードをこのコネクタに接続します。

アクティビティ LED (イーサネット): これらの LED は、複式イーサネット・コネクタ上にあります。いずれか一方の LED が点滅すると、サーバーと左または右のコネクタに接続されているネットワーク・デバイスとの間でデータの送受信が行われています。点滅の頻度はネットワーク上のトラフィックの量に比例します。

リンク LED (イーサネット): これらの LED は、複式イーサネット・コネクタ上にあります。いずれか一方の LED が点滅すると、サーバーと左または右のコネクタに接続されているネットワーク・デバイスとの間で活動リンクがあります。

システム・エラー LED: この LED が点灯した場合は、システム・エラーが起こったことを示します。システム・ボード上の障害のあるコンポーネントの近くの LED も点灯し、エラーが特定されます。システム・エラー LED は、サーバーの前面にもあります。

電源オン LED: この LED が点灯し、点滅していない場合、サーバーに電源が入られています。この LED が点滅しているときは、サーバーがオフになっているが AC 給電部にまだ接続されたままです。この LED がオフになっているときは、AC 電源が入っていないか、電源機構または LED 自体が故障しています。電源オン LED は、サーバーの前面にもあります。

注: この LED がオフになっているときは、サーバーに電源がないことを意味しているわけではありません。LED が焼き付いていることがあります。サーバーからすべての電源を除去するには、電気コンセントから電源コードを抜く必要があります。

Gigabit Ethernet 1 (LAN 1) コネクタ: このコネクタを使用して、サーバーをネットワークに接続します。

Gigabit Ethernet 2 (LAN 2) コネクタ: このコネクタを使用して、サーバーをネットワークに接続します。

USB コネクタ: USB 装置をこれらのコネクタに接続します。

ビデオ・コネクタ: モニターをこのコネクタに接続します。

シリアル・コネクタ: 9-ピンのシリアル装置をこのコネクタに接続します。

オプションのリモート管理アダプター II (システム管理アダプター) が PCI-X スロット 2 に取り付けられている場合 (使用可能な場合) は、そのサーバーには、追加のコネクタと LED があります。これらのコネクタと LED についての詳細は、アダプターに付属している資料をご覧ください。

サーバーの電源機構

サーバーが AC 給電部に接続されているが、電源が入られていない場合、オペレーティング・システムは稼働せず、またサービス・プロセッサ (ベース・ボード・マネジメント・コントローラーとも呼ばれます) 以外のすべての中核ロジックは動作していません。しかし、サーバーは、サーバーに電源を投入するというリモート・リクエストなどには対処できます。電源オン LED が点滅しているときは、サーバーが AC 電源に接続されてはいますが、電源は投入されていません。

サーバーの電源を入れる

サーバーが AC 電源に接続されてから、約 20 秒後に電源制御ボタンがアクティブになるので、電源制御ボタンを押して、サーバーをオンにし、オペレーティング・システムを開始することができます。

次のいずれかの方法で、サーバーの電源をオフにすることもできます。

- サーバーの電源を入れたときに電源障害が発生した場合は、電源が復元したときにサーバーは自動的に再始動します。
- サーバーが、少なくとも 1 つのサーバーがオプションのリモート管理アダプター II がインストール済みの、ASM 相互接続ネットワークに接続されている場合、サーバーはリモート管理アダプター II ユーザー・インターフェースから電源を投入できます。
- ご使用のオペレーティング・システムがオプションのリモート管理アダプター II 用のシステム管理ソフトウェアをサポートしている場合は、システム管理ソフトウェアがサーバーをオンにすることができます。
- ご使用のオペレーティング・システムが、Wake on LAN 機能をサポートしている場合は、Wake on LAN 機能がサーバーをオンにすることができます。

サーバーの電源を切る

サーバーの電源を切るが、AC 電源に接続したままにしておくと、サーバーは、サーバーに電源を投入するというリモート・リクエストなどのサービス・プロセッサには対処できます。サーバーからすべての電源を除去するには、給電部から電源コードを抜く必要があります。

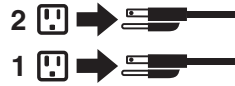
サーバーをオフにするときに、正常シャットダウンをする必要があるオペレーティング・システムもあります。オペレーティング・システムのシャットダウンについての詳細は、オペレーティング・システム関係の資料をお読みください。

安全 5:



注意:

装置の電源制御ボタンおよび電源機構の電源スイッチは、装置に供給されている電流をオフにするものではありません。装置には 2 本以上の電源コードが使われている場合があります。装置から完全に電気を取り除くには給電部からすべての電源コードを切り離してください。



次のいずれかの方法で、サーバーの電源をオフにすることができます。

- ご使用のオペレーティング・システムがシャットダウンの機能をサポートしている場合、サーバーをオフにすることができます。オペレーティング・システムの正常なシャットダウンの後、サーバーは自動的にオフになります。
- ご使用のオペレーティング・システムが、電源制御ボタンを押してオペレーティング・システムを正常シャットダウンし、サーバーをオフにする機能をサポートしている場合、電源制御ボタンを押してオペレーティング・システムの正常シャットダウンを開始しサーバーをオフにすることができます。
- オペレーティング・システムが機能を停止した場合は、電源制御ボタンを押して、4 秒間以上押し続け、サーバーをオフにすることができます。
- サーバーが、少なくとも 1 つのサーバーがオプションのリモート管理アダプター II がインストール済みの、ASM 相互接続ネットワークに接続されている場合、サーバーはリモート管理アダプター II ユーザー・インターフェースから電源を切断できます。
- オプションのリモート管理アダプター II がサーバーにインストールされている場合、サーバーはリモート管理アダプター II ユーザー・インターフェースから電源を切断できます。
- Wake on LAN 機能がサーバーをオンにした場合は、Wake on LAN 機能がサーバーをオフにすることができます。
- サービス・プロセッサは、重要なシステム障害への自動的な応答としてサーバーの電源を切ります。
- サービス・プロセッサからの要求を通じてサーバーの電源を切ることができます。

第 2 章 サーバーの構成

ご使用のサーバーでは、次のような構成プログラムと機能が提供されます。

- **Configuration/Setup Utility プログラム**

Configuration/Setup Utility プログラムは、サーバーの基本入出力システム (BIOS) コードの一部です。これを使用して、シリアル・ポート割り当ての構成、割り込み要求 (IRQ) 設定の変更、シリアル・ポートの割り当ての構成、始動デバイス順序の変更、日時の設定、およびパスワードの設定を行います。このユーティリティー・プログラムの使用の詳細については、14 ページの『Configuration/Setup Utility プログラムの使用』を参照してください。

- **IBM ServerGuide Setup and Installation CD**

ServerGuide により、ご使用のサーバー用に設計されたソフトウェアのセットアップ・ツールおよびインストール・ツールが提供されます。ご使用のサーバーのインストール中にこの CD を使用して、RAID 機能付きオンボード SCSI コントローラーなどの基本的なハードウェアの構成を行い、オペレーティング・システムのインストールの簡素化を図ります。この CD の使用の詳細については、22 ページの『ServerGuide Setup and Installation CD の使用』を参照してください。

- **RAID 構成プログラム**

- **LSI Logic Configuration ユーティリティー・プログラム**

LSI Logic Configuration ユーティリティーを使用して、RAID 機能付き内蔵 SCSI コントローラーとそれに接続されたデバイスを構成することができます。このユーティリティー・プログラムの使用の詳細については、26 ページの『LSI Logic Configuration ユーティリティー・プログラムの使用』を参照してください。

- **ServeRAID マネージャー**

ServeRAID マネージャーは、スタンドアロン・プログラムとして使用可能で、また IBM Director 拡張機能として使用可能です。ご使用のサーバーに ServeRAID アダプターが取り付けられている場合、または SCSI コントローラーの RAID 機能を使用している場合は、オペレーティング・システムをインストールする前に、ServeRAID マネージャーを使用して、ディスク・アレイ・サブシステムを定義して構成する必要があります。このユーティリティー・プログラムの使用の詳細については、27 ページの『ServeRAID マネージャーの使用』を参照してください。

- **イーサネット・コントローラーの構成**

イーサネット・コントローラーを構成するには、27 ページの『Gigabit Ethernet コントローラーの構成』を参照してください。

- **ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新ユーティリティー・プログラム**

ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新については、28 ページの『ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新プログラムの使用』を参照してください。

Configuration/Setup Utility プログラムの使用

Configuration/Setup Utility プログラムは、次の目的で使用します。

- 構成情報の表示
- 装置および入出力ポートの割り当ての表示および変更
- 日時の設定
- パスワードの設定および変更
- サーバーの始動の特性および始動デバイスの順序 (始動ドライブ順序) の設定および変更
- 拡張ハードウェア機能設定の設定と変更
- 電源管理機能の設定値の表示、設定、および変更
- エラー・ログの表示とクリア
- 割り込み要求 (IRQ) 設定値の変更
- USB キーボードおよびマウス・サポートの使用可能化 (デフォルト)

Configuration/Setup Utility プログラムの始動

Configuration/Setup Utility プログラムを開始するには、次の手順を実行します。

1. サーバーの電源を入れます。
2. プロンプト `Press F1 for Configuration/Setup` が表示されたら、F1 を押します。ユーザー (始動) パスワードと、スーパーバイザー (管理者) パスワードの両方を設定してある場合は、スーパーバイザー・パスワードを入力しないとすべての Configuration/Setup メニューにアクセスすることはできません。スーパーバイザー・パスワードを入力しないと、Configuration/Setup Utility の限られたメニューしか使用できません。
3. ウィンドウ上の指示に従ってください。
4. 表示または変更のための設定を選択します。

Configuration/Setup Utility メニュー選択項目

Configuration/Setup Utility のメイン・メニューには、次の選択が表示されています。ご使用のサーバーの BIOS コードのバージョンに応じて、メニューの選択についての以下の説明はいくらか異なることもあります。

- **System Summary**

この選択項目を選択し、マイクロプロセッサのタイプ、スピード、およびキャッシュ・サイズ、ならびにインストール済みメモリー量を含む、構成情報を表示します。Configuration/Setup Utility プログラムのその他のオプションにより構成の変更を行った場合、変更値はシステム・サマリーに反映され、システム・サマリーで設定値を直接変更することはできません。

この選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューと限定メニューの両方に表示されます。

- **System Information**

この選択項目を選択し、サーバーに関する情報を表示します。Configuration/Setup Utility プログラムのその他のオプションにより変更を行った場合、それらの変更の一部はシステム情報に反映され、システム・サマリーで設定値を直接変更することはできません。

この選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにのみ表示されません。

– Product Data

サーバーのマシン・タイプと型式、シリアル番号、電氣的消去可能プログラムブル ROM (EEPROM) に格納されている BIOS コードの改訂レベルまたは発行日付を表示するには、この選択項目を選択します。

• Devices and I/O Ports

装置や入出力 (I/O) ポートの割り当てを表示または変更する場合は、この選択肢を選択してください。

内蔵 SCSI およびイーサネット・コントローラーおよびすべての標準ポート (たとえば、シリアルおよびパラレル) を使用可能または使用不可にできます。

Enable は、すべてのコントローラーに対してのデフォルトの設定値です。デバイスを使用不可にすると、それは構成できません。そしてオペレーティング・システムはそれを検出できません (これはデバイスを切断することと同等です)。

RAID 機能付き内蔵 SCSI コントローラーを使用不可にする場合、しかも SCSI アダプターを取り付けていない場合は、サーバーには SCSI 機能がなくなります。内蔵のイーサネット・コントローラーを使用不可にする場合、しかもイーサネット・アダプターを取り付けていない場合は、サーバーにはイーサネット機能がなくなります。

この選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにのみ表示されません。

• Date and Time

サーバーの日時および時刻を 24 時間形式 (hour :minute :second) でセットする場合、この選択項目を選択します。

この選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにのみ表示されません。

• System Security

この選択項目を選択し、パスワードの設定を行います。詳細については、18 ページの『パスワード』を参照してください。

この選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにのみ表示されません。

– User Password

この選択項目を選択し、ユーザー・パスワードの設定または変更を行います。詳細については、19 ページの『ユーザー・パスワード』を参照してください。

– Supervisor Password

IBM リモート管理アダプター II が取り付けられている場合のみ、Configuration/Setup Utility メニューにこの選択項目が表示されます。

この選択項目を選択し、スーパーバイザー・パスワードの設定または変更を行います。スーパーバイザー・パスワードは、システム管理者が使用するものであり、Configuration/Setup Utility の完全メニューへのリモートからのアクセスを制限します。スーパーバイザー・パスワードが設定されていると、パスワード・プロンプトでスーパーバイザー・パスワードをタイプしたときのみ Configuration/Setup Utility の完全メニューが使用可能です。詳細については、19 ページの『スーパーバイザー・パスワード』を参照してください。

• Start Options

始動オプションを表示または変更するには、この選択項目を選択します。始動オプションの変更内容は、サーバーを再始動した時点で有効になります。

ここで指定できる内容は、サーバーの始動時にキーボードの Num Lock をオン/オフのどちらにするか、サーバーで簡素化された始動プロセス (**Quickboot モード**) を使用するか、および始動中に診断画面 (**ブート診断画面**) を表示するかの 3 つです。診断画面には、メモリー・カウントと検出されたデバイス、さらに発生したエラーが表示されます。

レガシー USB のサポートを使用可能または使用不可にできます (レガシー USB がサポートされると、DOS や UNIX などの USB を認識しないオペレーティング・システムが、USB のキーボードとマウスを認識できるようになります)。

始動シーケンスは、サーバーがブート・レコードを検索するデバイスをチェックする順序を指定します。サーバーは、最初に検索したブート・レコードから始動します。「**Startup Sequence**」メニューから 4 個までの始動デバイスを選択できます。

boot fail count (ブート失敗カウント) を使用可能にすると、3 回連続してブート・レコードを検出できなかった場合に、BIOS のデフォルト設定が復元されます。

この選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにのみ表示されません。

• Advanced Setup

拡張ハードウェア機能設定の変更を行う場合、この選択項目を選択します。レコード、イベント・タイプ、およびタイム・スタンプなどのシステム・イベント・ログ情報を表示する場合も、この選択項目を選択します。

重要: これらのオプションを不正確に構成すると、サーバーは誤動作することがあります。ウィンドウ上の指示に注意深く従ってください。

この選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにのみ表示されません。

– Chipset Configuration

4GB Memory Hole Adjust および **4GB Memory Hole Size** 設定値を表示したり変更するには、この選択項目を選択します。 **4GB Memory Hole Adjust** 値が **Manual** にセットされている場合にのみ、**4GB Memory Hole Size** 値を変更できます。

ECC および **ECC Sdram** などの他のメモリー構成値を使用可能または使用不可にする場合にも、「**Chipset Configuration**」を選択します。

– **Power Management**

この選択項目を選択し、以下のようなサーバーの電源管理機能の表示、設定、および変更を行います。

- **Resume On Modem Ring**
- **Wake up by LAN**
- **Resume On Time**
- **Resume Date**
- **Resume Time**
- **After Power Failure**

上記の **Wake up by LAN** などの機能を使用するには、サーバーに **Wake on LAN** ハードウェアおよびソフトウェアが含まれ、オペレーティング・システムが **Wake on LAN** 機能をサポートする必要があります。

事前に決められた日時に再開されるようにサーバーを設定するには、「**Resume On Time**」を選択し、「**Resume Date**」と「**Resume Time**」を使用して日時を指定します。

「**After Power Failure**」は、電源障害後にサーバーをオフのままにするか、電力が復元された時点で再開するかを指定するときに使用します。

– **Console Redirection**

この選択項目を選択し、ローカルのキーボード、ビデオ、マウス・コンソールをリモート・コンソールにリダイレクトするときに使用するシリアル接続の設定を表示および変更します。

この画面に他の値を表示するには、「**Console Redirection**」の値を「**On-board COM A**」に設定する必要があります。デフォルト値は「**Disabled**」です。

注: FIFO レベルは、データ伝送用のベースボード管理コントローラーで使用されるバッファ設定です。 **Serial over LAN** 接続の場合は値を 14 (デフォルト) にする必要があり、他のタイプの接続でもこの値が推奨されます。この設定は 14 のままにしておいてください。コンソール・リダイレクト接続の構成および確立についての詳細は、21 ページの『コンソール・リダイレクトの構成』を参照してください。

– **ベースボード管理コントローラー**

この選択項目を選択し、ベースボード管理コントローラーの設定を表示および変更します。ベースボード管理コントローラーは、サービス・プロセッサ (SVP) としても知られています。

ここでは、Intelligent Platform Management Interface の仕様とベースボード管理コントローラーのファームウェア・レベルの表示、ベースボード管理コントローラーが使用する COM ポートの設定変更、BIOS POST ウォッチドッグの使用可能または使用不可への設定、およびシステム・イベント・ログの表示を行います。

- **エラー・ログ**

- **POST Error Log**

この選択項目を選択し、POST の中にシステムが生成した最新の 3 つのエラー・コードおよびメッセージを表示します。矢印キーを使用して、エラー・ログの各ページを移動することができます。「**Clear error logs**」を選択して、POST エラー・ログを消去します。

- **システム・エラー・ログ**

オプションのリモート管理アダプター II が取り付けられている場合、エラー・メッセージの全文を含むシステム・エラー・ログが作成されます。矢印キーを使用して、エラー・ログの各ページを移動することができます。「**Clear error logs**」を選択すると、システム・エラー・ログが消去されます。

発生する可能性のあるエラー・コードに関する詳細を表示するには、ご使用のサーバーで診断プログラムを実行してください。詳細については、*IBM @server Documentation CD* 上のハードウェア・メンテナンス・マニュアルおよびトラブルシューティング・ガイドを参照してください。

- **Save Settings**

この選択項目を選択し、設定値に加えた変更を保管します。

- **Restore Settings**

この選択項目を選択し、設定値に加えた変更をキャンセルし、直前の設定値を復元します。

- **Load Default Settings**

この選択項目を選択し、設定値に加えた変更をキャンセルし、工場出荷時設定値を復元します。

- **Exit Setup**

この選択項目を選択して、Configuration/Setup Utility プログラムを終了します。設定値に何らかの変更を行い、それを保管しない場合、プログラムは変更内容を保管するか、あるいは変更内容を保管せずに終了するかを尋ねてきます。

パスワード

System Security 選択項目から、ユーザー (始動) パスワードおよびスーパーバイザー (管理者) パスワードの設定、変更、および削除ができます。スーパーバイザー・パスワードは、オプションの IBM リモート管理アダプター II がサーバーに取り付けられている場合にのみ、設定できます。**System Security** 選択項目は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにのみ表示されます。

ユーザー・パスワードのみを設定している場合、システムの始動を完了するにはユーザー・パスワードをタイプする必要があります。次に Configuration/Setup Utility の完全メニューにアクセスします。

スーパーバイザー・パスワードは、システム管理者が使用するものであり、Configuration/Setup Utility の完全メニューへのリモートからのアクセスを制限します。スーパーバイザー・パスワードのみを設定している場合、システムの始動を完了するのにパスワードをタイプする必要はありません。しかし、Configuration/Setup Utility メニューにアクセスするには、スーパーバイザー・パスワードをタイプする必要があります。

ユーザー用にユーザー・パスワードを、システム管理者にはスーパーバイザー・パスワードを設定している場合、いずれかのパスワードをタイプしてシステムの始動を完了します。スーパーバイザー・パスワードをタイプするシステム管理者は、Configuration/Setup Utility の完全メニューにアクセスできます。システム管理者はユーザーにユーザー・パスワードの設定、変更、および削除する権限を与えることができます。ユーザー・パスワードをタイプするユーザーは、Configuration/Setup Utility の限定メニューにのみアクセスできます。システム管理者がユーザーにユーザー・パスワードの設定、変更、および削除する権限を与えた場合、ユーザーはユーザー・パスワードの設定、変更、および削除ができます。

ユーザー・パスワード

ユーザー (始動) パスワードが設定されている場合、始動パスワードをタイプするまでシステムの始動は完了しません。パスワードには、最大 7 文字 (A~Z、a~z、0~9) の任意の組み合わせを使用することができます。

ユーザー・パスワードが設定されている場合、Unattended Start モードを使用可能にでき、このモードではキーボードとマウスをロックしたままでオペレーティング・システムを始動できます。ユーザー・パスワードをタイプして、キーボードおよびマウスをアンロックできます。

ユーザー・パスワードを設定している場合、パスワードを入力するまでは POST は完了しません。ユーザー・パスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で再度サーバーにアクセスすることができます。

- スーパーバイザー・パスワードが設定されていると、パスワード・プロンプトでスーパーバイザー・パスワードをタイプします (『スーパーバイザー・パスワード』を参照してください)。 Configuration/Setup Utility プログラムを始動してユーザー・パスワードをリセットします。
- サーバーのバッテリーを取り外し、次にそれを取り付けます。詳細については、IBM @server Documentation CD 上のオプション・インストール・ガイドを参照してください。
- システム・ボード上のクリア CMOS (パスワード・オーバーライド) ジャンパー (JBAT1) の位置を変え、ユーザー・パスワード検査をバイパスします。詳細については、20 ページの『パスワードのリセット』を参照してください。

スーパーバイザー・パスワード

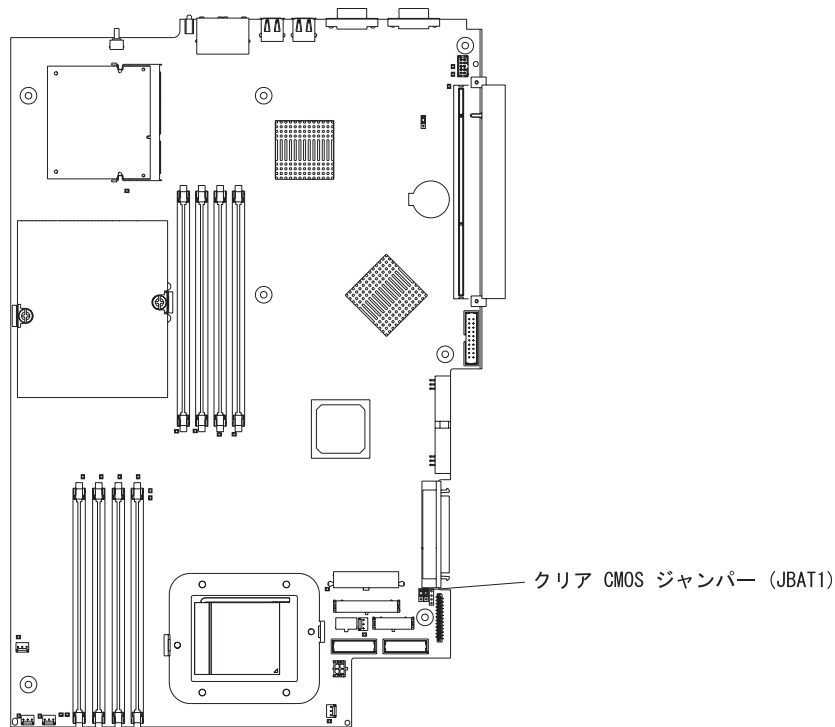
スーパーバイザー (管理者) パスワードが設定してある場合は、スーパーバイザー・パスワードを入力しないと Configuration/Setup Utility の完全メニューにアクセスすることはできません。パスワードには、最大 7 文字 (A~Z、a~z、0~9) の任意の

組み合わせを使用することができます。IBM リモート管理アダプター II が取り付けられている場合にのみ、Configuration/Setup Utility メニューに **Supervisor Password** 選択項目が表示されます。

スーパーバイザー・パスワードを忘れた場合、クリア CMOS ジャンパーの位置の変更後スーパーバイザー・パスワードをリセットできます。詳細については、『パスワードのリセット』を参照してください。

パスワードのリセット

ユーザー・パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードを忘れた場合、システム・ボード上のクリア CMOS (パスワード・オーバーライド) ジャンパー (JBAT1) の位置を変え、ユーザー・パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードのチェックをバイパスします。これでこれらのパスワードをリセットできます。ジャンパーの位置は、次のイラストで示されます。



重要: スイッチの設定値の変更またはジャンパーの移動の前に、サーバーの電源を切り、その後すべての電源コードおよび外部ケーブルを取り外します。v ページの安全上の注意を検討してください。本書で示されていない設定値の変更や、システム・ボード・スイッチまたはジャンパー・ブロックのジャンパーの移動はしないでください。

クリア CMOS ジャンパーの位置を変更するときは、以下の手順をすべて行ってください。

1. v ページの安全上の注意を検討してください。
2. サーバーと周辺装置の電源を切り、すべての外部ケーブルと電源コードを外して、カバーを取り外します。サーバーのカバーとベゼルの取り外しかたについてのセクションは、IBM @server Documentation CD のオプション・インストール・ガイドでご覧ください。

3. ユーザー・パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードのパスワード検査をバイパスするには、JBAT1 でジャンパーの位置を変更します。
4. サーバーを、USB キーボード、モニター、および USB マウスに接続してから、給電部に接続します。
5. サーバーの電源を入れます。これで、Configuration/Setup Utility プログラムを起動して、古いパスワードの削除か、新しいユーザー・パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードの設定のいずれかができます。ジャンパーを直前の位置に戻す必要はありません。

BIOS コードの更新

注: サーバーの正常なオペレーションを保証するために、BIOS コードの更新の前にベースボード管理コントローラー・ファームウェアの更新を確認します。詳細は、28 ページの『ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新プログラムの使用』を参照してください。

サーバーの BIOS コードの最新のレベルは、<http://www.ibm.com/pc/support/> で入手できます。サーバーに最新のベースボード管理コントローラーのファームウェア・レベルが入っていることを検証した後、次の方法のうちの 1 つによりサーバーの BIOS コードを更新できます。

- この IBM Web サイトから最新の BIOS コードのダウンロード、更新ディスクレットの作成、および USB ディスケット・ドライブの使用。
- 入手可能な場合、Linux または Microsoft® Windows® オペレーティング・システムの更新パッケージのインストール

コンソール・リダイレクトの構成

サーバーでコンソール・リダイレクト接続を確立するには、Configuration/Setup Utility プログラムを使用して、次のように接続のタイプを構成します。

Serial over LAN を使用するコンソール・リダイレクトを構成するには、次の手順を実行します。

1. コンソール・リダイレクトを使用可能にします (「**Advanced Setup**」 --> 「**Console Redirection**」の順に選択し、「**Console Redirection**」の値を「**On-board COM A**」に設定して、「**FIFO Level**」値が **14** であることを確認します)。
2. ベースボード管理コントローラーが使用する COM ポートを、コマンド・ライン・インターフェースを使用するように設定します (「**Advanced Setup**」 --> 「**Baseboard Management Controller**」の順に選択し、「**COM port on BMC**」の値を「**CLI**」に設定します)。

シリアルのみを使用するコンソール・リダイレクトを構成するには、次の手順を実行します。

1. コンソール・リダイレクトを使用可能にします (「**Advanced Setup**」 --> 「**Console Redirection**」の順に選択し、「**Console Redirection**」の値を「**On-board COM A**」に設定します)。

2. ベースボード管理コントローラーが使用する COM ポートを使用不可にします (「**Advanced Setup**」 --> 「**Baseboard Management Controller**」の順に選択し、「**COM port on BMC**」の値を「**Disabled**」に設定します)。

コンソール・リダイレクトを開始するには、クライアント・コンピュータで HyperTerminal などの Telnet アプリケーションを実行し、サーバーとの Intelligent Platform Management Interface (IPMI) セッションを確立する IPMI アプリケーションを実行します。

ServerGuide Setup and Installation CD の使用

ServerGuide Setup and Installation CD には、ご使用の IBM サーバー用に設計された使いやすいセットアップ・プログラムおよびインストール・プログラムが含まれています。ServerGuide プログラムは、サーバー・モデルおよび取り付けられたハードウェア・オプションを検出し、これらの情報をセットアップ中に使用して、ハードウェアを構成します。ServerGuide プログラムは、更新済みのデバイス・ドライバを提供、場合によってはそのデバイス・ドライバをインストールすることにより、オペレーティング・システムのインストールを簡素化します。

注: Linux オペレーティング・システムをご使用のサーバーにインストールする場合、ServerGuide、バージョン 7.2.06 以降を使用して、ご使用のハードウェアをセットアップおよび構成できます。続いて 24 ページの『ServerGuide を使用しないオペレーティング・システムのインストール』に記述されている手順を使用して、Linux オペレーティング・システムをインストールします。

ServerGuide プログラムの新バージョンが入手可能な場合、*ServerGuide Setup and Installation* CD のフリー・イメージをダウンロードするか、あるいはこの CD を購入できますこのイメージをダウンロードするには、IBM ServerGuide Web ページ、<http://www.ibm.com/pc/qtechinfo/MIGR-4ZKPP.html> にアクセスしてください。最新の *ServerGuide Setup and Installation* CD を購入する場合は、ServerGuide fulfillment Web サイト、<http://www.ibm.com/pc/coupon/> にアクセスしてください。

ServerGuide プログラムには、セットアップを容易にするための次の機能が備わっています。

- 使いやすいインターフェース
- 検出されたハードウェアに基づいた、ディスクettを使用しないセットアップおよび構成プログラム
- ご使用の RAID 機能付き ServeRAID アダプターまたはオンボード SCSI コントローラーを構成する、ServeRAID Manager プログラム
- ご使用のサーバー・モデルおよび検出されたハードウェア用に提供されるデバイス・ドライバ
- セットアップ中に選択可能なオペレーティング・システムの区画サイズおよびファイル・システム・タイプ

ServerGuide の特徴

フィーチャーおよび機能は ServerGuide プログラムのバージョンによって若干異なる場合があります。ご使用のバージョンに関する詳細を確認するには、*ServerGuide*

Setup and Installation CD を起動して、オンラインによる概要を表示します。すべての機能がすべてのモデルでサポートされる訳ではありません。

ServerGuide プログラムには、始動可能 (ブート可能) な CD-ROM ドライブ付きの IBM サーバーがサポートされている必要があります。*ServerGuide Setup and Installation* CD 以外に、オペレーティング・システムをインストールするためのオペレーティング・システム CD が必要です。

ServerGuide プログラムには、次の機能が備わっています。

- システムの日付と時刻の設定
- RAID 機能付きの SCSI RAID アダプター、コントローラー、またはオンボード SCSI コントローラーの検出、および SCSI RAID 構成プログラムの実行 (ServeRAID アダプター専用の LSI チップ・セットを使用)。
- ServeRAID アダプターのマイクロコード (ファームウェア) レベルの確認と新レベルが CD から入手可能であるかの判別。
- 取り付けられたハードウェア・オプションの検出およびほとんどのアダプターと装置用の更新済みデバイス・ドライバーの提供。
- サポートされる Windows オペレーティング・システム用のディスクットを使用しないインストール・プログラムの提供。
- ご使用のハードウェアおよびオペレーティング・システムに関するヒントへのリンクがある、オンラインの README ファイルを組み込む。

セットアップおよび構成の概要

ServerGuide Setup and Installation CD を使用する場合は、セットアップ・ディスクットは必要ありません。この CD を使用して、サポートされるすべての IBM サーバー・モデルを構成できます。セットアップ・プログラムにより、ご使用のサーバー・モデルのセットアップに必要なタスクのリストが提供されます。RAID 機能付きの ServeRAID アダプターまたは内蔵 SCSI コントローラーを搭載したサーバーでは、SCSI RAID 構成プログラムを実行して論理ドライブを作成できます。

注: フィーチャーおよび機能は ServerGuide プログラムのバージョンによって若干異なる場合があります。

ServerGuide Setup and Installation CD を起動するときは、プログラムにより、次のタスクを実行するようにプロンプトが出されます。

- 使用する言語を選択する。
- キーボードのレイアウトと国別を選択する。
- 概説を表示して ServerGuide に機能について学習する。
- README ファイルを表示して、使用するオペレーティング・システムとアダプターのインストールに関するヒントをよく読む。
- オペレーティング・システムのインストールを開始する。オペレーティング・システムの CD が必要になります。

標準的なオペレーティング・システムのインストール

ServerGuide プログラムを使用して、インストール時間を短縮できます。

ServerGuide プログラムにより、ご使用のハードウェアおよびインストールしている

オペレーティング・システムに必要なデバイス・ドライバーが提供されます。このセクションでは、標準的なServerGuide オペレーティング・システムのインストールについて説明します。

注: フィーチャーおよび機能は、ServerGuide プログラムのバージョンによって若干異なる場合があります。

1. セットアップ・プロセスの完了後、オペレーティング・システムのインストール・プログラムが開始します。(インストールを完了するには、オペレーティング・システム CD が必要になります。)
2. ServerGuide プログラムにより、サーバー・モデル、サービス・プロセッサ、ハード・ディスク・コントローラーおよびネットワーク・アダプターに関する情報が格納されます。次にこのプログラムは CD をチェックして、新しいデバイス・ドライバーがないかを確認します。この情報が格納されると、オペレーティング・システムのインストール・プログラムに渡されます。
3. ServerGuide プログラムは、ユーザーのオペレーティング・システムの選択および取り付けられたハード・ディスクを基にしたオペレーティング・システム・パーティションを提供します。
4. ServerGuide プログラムにより、ユーザーにオペレーティング・システム CD を挿入しサーバーを再始動するよう、プロンプトが出されます。この時点で、オペレーティング・システムのインストール・プログラムにより、インストールを完了するための制御が行われます。

ServerGuide を使用しないオペレーティング・システムのインストール

サーバーのハードウェア構成が完了すると、次のステップに従って、オペレーティング・システムのインストールに関する最新の情報を IBM のサポート Web ページからダウンロードします。

注: ごこのサーバーに 32 ビットの Windows オペレーティング・システムをインストールする場合、このサーバーに付属のServerGuide Setup and Installation CD を使用してインストールできます (22 ページの『ServerGuide Setup and Installation CD の使用』を参照)。

IBM Support Web サイトから、最新のオペレーティング・システムのインストールに関する説明をダウンロードするための次の手順を実行します。

1. <http://www.ibm.com/pc/support/> に進みます。
2. **Download** セクションで、**Downloads & drivers** をクリックします。
3. 「Downloads and drivers」ページの「**Brand**」フィールドで、「**Servers**」を選択します。
4. 「**Family**」フィールドで、「**@server 326**」を選択します。
5. 「**Operating system**」フィールドで、ご使用のオペレーティング・システムを選択します。
6. 「**Continue**」をクリックします。
7. 「@server 326 Support」ページの「**View by document type**」フィールドで、「**OS installation**」を選択します。
8. ご使用のオペレーティング・システムの手順を選択してください。

RAID 構成プログラムの使用

RAID を構成したり管理するには、LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムおよび ServeRAID Manager を使用します。これらのプログラムを必ず本書の説明のとおりで使用してください。

- LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムは次の目的で使用します。
 - SCSI ハード・ディスクでロー・レベル・フォーマットを実施する
 - 接続しているデバイスの SCSI ID の表示や変更を行う。
 - SCSI ハード・ディスクで SCSI プロトコル・パラメーターを設定する
- ServeRAID Manager は、次の目的で使用します。
 - アレイを構成する
 - RAID の構成および関連デバイスを表示する
 - RAID コントローラーのオペレーションをモニターする

さらに、LSI コマンド行構成プログラム (CFG1030) は、<http://www.ibm.com/pc/support/> から入手できます。

アレイを構成および管理するため LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムおよび ServeRAID Manager を使用するときは、次の情報を考慮してください。

- ご使用のサーバー内の RAID 機能付きオンボード SCSI コントローラーは、RAID レベル 1 のみをサポートします。オプションの ServeRAID コントローラーを取り付けると、追加の RAID レベルが提供されます。
- ご使用のサーバーに ServeRAID コントローラーがインストール済みの場合、他のサポートされる RAID レベルを構成するために ServeRAID Manager を使用できます。
- RAID level-1 (ミラーリングされた) ペアを作成するとき、すべてのドライブは同一のチャンネルに接続する必要があります。
- RAID 機能付きオンボード SCSI コントローラーを使用しているときのみ、プライマリー・ドライブにオペレーティング・システムをインストールした後、ミラーリングをセットアップできます。プライマリー・ドライブがより低い SCSI ID (たとえば、0) をもっていることを確認する必要があります。
- オプションの ServeRAID コントローラーのファームウェアおよび BIOS コードを更新するには、コントローラーに同梱されている IBM *ServeRAID Support* CD を使用する必要があります。
- ご使用のサーバーに異なるタイプの RAID アダプターを取り付ける場合は、情報としてコントローラーに付属の資料を参照して、接続装置の SCSI 設定値を表示または変更してください。

重要: オペレーティング・システムインストールした後で、RAID level-1 (ミラーリングされた) アレイを構成するため、RAID 機能付きオンボード SCSI コントローラーを使用する場合、セカンダリー物理ドライブ上に直前にストアされたデータまたはアプリケーションにできなくなります。

LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムの使用

LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムは、次の目的に使用できる、組み込み式の、メニュー方式の構成ユーティリティ・プログラムです。

- SCSI ハード・ディスクのロー・レベル・フォーマットを実施する
- SCSI デバイス・スキャン順序を設定する
- コントローラー用の SCSI ID を設定する

注:

1. ご使用のサーバー内の RAID 機能付きオンボード SCSI コントローラーは、RAID レベル 1 のみをサポートします。オプションの RAID アダプターを取り付けると、追加の RAID レベルが提供されます。RAID 操作用にサーバーを構成することについての詳細は、27 ページの『ServeRAID マネージャーの使用』をご覧ください。
2. ご使用のサーバーに異なるタイプの RAID アダプターを取り付ける場合は、RAID アダプターに付属の構成方法を使用して、接続装置の SCSI 設定値を表示または変更してください。

次のセクションでは、LSI 論理構成ユーティリティ・プログラムを開始して、SCSI ハード・ディスクをフォーマットする方法の指示が示されています。

LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムの始動

LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラムを始動するには、次の手順を完了します。

1. サーバーの電源を入れます。
2. <<< Press <CTRL><C> to start LSI Logic Configuration Utility >>> プロンプトが出されたら、Ctrl+C を押します。スーパーバイザー・パスワードを設定していた場合、パスワードをタイプするようにプロンプトが出されます。
3. 矢印キーを使用して、アダプターのリストからコントローラー (チャンネル) を選択し、Enter (キー) を押します。
4. 画面の指示に従って、選択された項目の設定値を変更し、Enter を押します。「**Device Properties**」または「**Mirroring Properties**」を選択すると、追加画面が表示されます。

設定値の変更が終了したら、Esc を押してプログラムを終了し、「**Save**」を選択して変更した設定値を保管します。

SCSI ハード・ディスク・ドライブのフォーマット

ロー・レベル・フォーマットによって、ハード・ディスク・ドライブからデータをすべて除去します。保管したいデータがある場合、この手順を実行する前にハード・ディスク・ドライブをバックアップします。

注: SCSI ハード・ディスクをフォーマットする前に、ディスクがミラーリングされたペアの一部でないことを確認します。アダプターのリストから、フォーマットするドライブのコントローラー (チャンネル) を選択します。「**Mirroring Properties**」を選択し、ドライブのミラー値が「**None**」であることを確認します。

次の手順を実行してドライブのフォーマットを実行します。

1. アダプターのリストから、フォーマットするドライブのコントローラー (チャンネル) を選択します。
2. 「**Device Properties**」を選択します。
3. 矢印キー (↑ および ↓) を使用して、フォーマットするドライブを強調表示します。
4. 矢印キー (← および →) あるいは End キーを使用して、右方向にスクロールします。
5. 「**Format**」を選択して、Enter を押し、低水準フォーマット設定を開始します。

ServeRAID マネージャーの使用

RAID アダプターでは、複数の物理 SCSI ハード・ディスクをディスク配列として操作される論理装置として使用することができます。IBM ServeRAID アダプターを使用する場合は、アダプターには、ServeRAID マネージャー・プログラムおよび ServeRAID mini-configuration プログラムが入れられた CD が付属して付いてきます。これを用いて ServeRAID コントローラーを構成することができます。これらのプログラムの使用についての詳細は、サーバーに付属するインストール・ガイド およびアダプターに付属する資料を参照してください。

Gigabit Ethernet コントローラーの構成

このサーバーは、システム・ボード上に 2 つのイーサネット・コントローラーが搭載されています。これらは 10-Mbps、100-Mbps、または 1-Gbps ネットワークと接続するためのインターフェースを提供し、また、ネットワーク上でデータの送信および受信を同時に行うことができる全二重 (FDX) 機能を提供します。ご使用のサーバーのイーサネット・ポートがオートネゴシエーションをサポートしている場合は、コントローラーは、ネットワークのデータ転送速度 (10BASE-T、100BASE-TX、または 1000BASE-T)、および二重モード (全二重モードまたは半二重モード) を検出し、その速度およびモードで自動的に操作します。

ジャンパーを設定したり、コントローラーを構成したりする必要はありません。ただし、オペレーティング・システムがコントローラーをアドレッシングできるよう、デバイス・ドライバをインストールする必要があります。デバイス・ドライバはご使用のオペレーティング・システムに付属しています。追加のデバイス・ドライバおよびご使用のイーサネット・コントローラーの構成については、サーバーに付属の *Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Software* CD を参照してください。更新済み情報およびコントローラーの構成については、<http://www.ibm.com/pc/support/> に進みます。

注: 構成メニューに表示される Wake on LAN 機能を使用するには、サーバーには Wake on LAN ハードウェアおよびソフトウェアが含まれていて、オペレーティング・システムが Wake on LAN 機能をサポートする必要があります。

イーサネット・コントローラーは、チーミング、優先順位パケット、ロード・バランシング、フォールト・トレランス、および仮想 LAN などのオプション・モードをサポートしており、サーバーにより高いパフォーマンス、セキュリティ、およ

びスループットを提供します。これらのモードは、内蔵イーサネット・コントローラーやサポートされるイーサネット・アダプター上のコントローラーに適用します。

ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新プログラムの使用

ベースボード管理コントローラー用のファームウェアを更新するには、IBM サポートの Web サイト <http://www.ibm.com/pc/support/> からサーバー用ベースボード管理コントローラー *Firmware Update Diskette* をダウンロードしてください。ディスクレットを作成するため、またはファームウェアの更新に使用できる Linux または Windows オペレーティング・システム・アップデート・パッケージを作成するため、プログラムを実行します。ファームウェア更新プログラムは、ベースボード管理コントローラーのファームウェアのみを更新し、デバイス・ドライバーには影響を与えません。

注: サーバーの正常なオペレーションを保証するために、BIOS コードの更新の前にサーバーのベースボード管理コントローラーのファームウェア・コードの更新を確認します。詳細は、21 ページの『BIOS コードの更新』を参照してください。

重要: 次の指示を続けるする前に、サーバーに外付けの USB ディスクレット・ドライブが取り付けられていることを確認してください。これらのタスクを完了するには、このデバイスが必要です。

最新のベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新をダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. <http://www.ibm.com/pc/support/> にアクセスします。
2. 「**Download**」セクションで、「**Downloads and drivers**」をクリックします。
3. 「Downloads and drivers」ページの「**Brand**」フィールドで、「**Servers**」を選択します。
4. 「**Family**」フィールドで「**eServer 326**」を選択し、「**Continue**」をクリックします。
5. 「eServer 326 support」ページで、ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新ディスクレットを選択します。
6. イメージ・ファイルからファームウェア更新ディスクレットを作成します。

注: Linux または Microsoft Windows オペレーティング・システムの更新パッケージがワールド・ワイド・ウェブ (WWW) で入手できる場合は、その更新パッケージに付属の指示に従います。

ファームウェアを更新するには、次の方法の内の 1 つを使用します。

- Linux または Windows オペレーティング・システムアップデート・パッケージがワールド・ワイド・ウェブ (WWW) で入手可能な場合、アップデート・パッケージに付属の指示に従います。
- ディスクレットを使用している場合、次の手順を完了します。
 1. サーバーの電源を切ります。

2. *Firmware Update Diskette* をサーバーに接続した外付け USB ディスケット・ドライブに挿入します。
3. サーバーの電源を入れます。サーバーが外付け USB ディスケット・ドライブから始動しない場合、*Configuration/Setup Utility* プログラムを使用して、外付け USB ディスケット・ドライブを始動装置として構成します。(14 ページの『*Configuration/Setup Utility* プログラムの使用』を参照してください。) ここで、再びこの手順のステップ 1 を開始します。
4. コマンド行プロンプトで、「update.bat」とタイプし、Enter (キー) を押します。

ファームウェア更新する際にエラーがある場合は、更新を再度行ってください。

ベースボード管理コントローラー LAN 接続の構成

サーバーでベースボード管理コントローラーのローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 接続オプションを構成するには、LAN 構成ユーティリティ (*lancfg.exe*) を使用します。このユーティリティは、ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新ディスクに収められています。LAN 構成ユーティリティは、ベースボード管理コントローラー・ファームウェアを更新した後に開始できます。ベースボード管理コントローラー・ファームウェアのダウンロードと更新の手順については、28 ページの『ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新プログラムの使用』を参照してください。

LAN 構成ユーティリティを使用してベースボード管理コントローラーの LAN 接続を構成するには、次の手順を実行します。

注: LAN 構成ユーティリティ (*lancfg.exe*) は、必ず、始動可能ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新ディスクからサーバーを始動した後に、DOS コマンド・ライン・セッションで実行してください。このユーティリティは DOS ウィンドウから実行しないでください。

1. ベースボード管理コントローラー・ファームウェア更新が完了したら、コマンド・プロンプトが表示されます。lancfg と入力し、Enter キーを押します。LAN 構成ユーティリティが開始し、「BMC 情報 (BMC Information)」画面が表示されます。ここに表示されるデフォルト値は読み取り専用です。この画面では変更できません。

LAN 構成ユーティリティを使用するには、F10 キーを押し、矢印キーを使用してウィンドウ上部にあるメニュー項目を選択します。

2. 「**LanCfg**」を選択します。「LAN 構成 (LAN Configuration)」画面が表示されます。ベースボード管理コントローラーの値を各フィールドに入力し、「**了解 (OK)**」を選択します。

注: 「**ホスト MAC アドレス (Host MAC Address)**」は読み取り専用なので、LAN 構成ユーティリティから変更できません。

3. 「**アラート (Alert)**」を選択します。「アラート設定 (Alert Setting)」画面が表示されます。このサーバーに該当する値を各フィールドに入力し、「**了解 (OK)**」を選択します。

注: 「**IP アドレス (IP Address)**」フィールドに、ベースボード管理コントローラーからアラートを転送するワークステーションの **IP アドレス**を入力します。

4. 「**セキュリティ (Security)**」を選択します。「**セキュリティ設定 (Security Setting)**」画面が表示されます。この画面には、4 つのベースボード管理コントローラー・ユーザー・アカウントを維持できます。この画面で変更を行うには、「**編集 (Edit)**」を選択して「**編集 (Edit)**」画面に変更を入力し、「**了解 (OK)**」を選択します。
5. すべての変更を完了したら、LAN 構成ユーティリティを終了する前に、ディスクレット・ドライブからファームウェア更新ディスクレットを取り出してください。
6. 「**終了 (Exit)**」を選択します。サーバーの再始動を求めるプロンプトが表示されたら、「**リブート (Reboot)**」を選択します。

付録 A. ヘルプおよび技術援助の入手

ヘルプ、サービス、技術支援、または IBM 製品に関する情報が必要な場合は、IBM がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。この付録には、IBM および IBM 製品に関する追加情報を入手する方法のほか、ご使用の xSeries または IntelliStation®システムに問題が起きたときにどうすればよいか、およびサービスを依頼するときには誰に連絡すればよいかについての情報を収めてあります。

依頼する前に

連絡する前に、以下の手順を実行して、必ずお客様自身で問題の解決を試みてください。

- ケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックして、システムの電源がオンになっていることを確認します。
- システム資料のトラブルシューティング情報、およびコンピューターに付属の診断ツールを使用します。診断ツールについては、IBM *xSeries Documentation CD* の「ハードウェア・メンテナンスおよびトラブルシューティング・ガイド」または IBM Support Web サイトにある IntelliStation の「ハードウェア・メンテナンス・ガイド」を参照してください。
- IBM Support Web サイト (<http://www.ibm.com/pc/support/>) にアクセスして、技術情報、ヒントおよび新しいデバイス・ドライバーをチェックするか、これらの情報を求める要求を送信します。

多くの問題は、IBM のシステムやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。ご使用のシステムに付属の資料には、ユーザーが実行できる診断テストについても記載しています。ほとんどの xSeries および IntelliStation システム、オペレーティング・システムおよびプログラムには、トラブルシューティング手順やエラー・メッセージおよびエラー・コードに関する説明書が付属しています。ソフトウェアの問題と考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

資料の使用

IBM xSeries または IntelliStation システムに関する情報、およびソフトウェアがプリインストールされている場合はそのソフトウェアに関する情報は、コンピューターに付属の資料に記載されています。その資料には、印刷されたブック、オンライン・ブック、README ファイル、およびヘルプ・ファイルが含まれています。診断プログラムの使用方法については、システム資料にあるトラブルシューティングに関する情報を参照してください。トラブルシューティング情報または診断プログラムを使用した結果、デバイス・ドライバーの追加や更新、あるいはほかのソフトウェアが必要になることがあります。IBM は、WWW に各種のページを設けており、最新技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーやアップデートのダウンロードができます。これらのページにアクセスするには、<http://www-6.ibm.com/jp/pc/support/> (日本語)、および <http://www.pc.ibm.com/support>

(英語) に進み、指示に従ってください。 IBM Publications Ordering System (<http://www.elink.ibm.com/public/applications/publications/cgibin/pbi.cgi>) では、資料を注文できます。

ヘルプおよび情報を WWW から入手する

ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) の IBM Web サイトには、IBMXSeries および IntelliStation の製品、サービスおよびサポートについて最新情報が記載されています。 IBM xSeries 情報のアドレスは <http://www.ibm.com/eserver/xseries/> です。 IBM の IntelliStation 情報のアドレスは <http://www.ibm.com/pc/intellistation/> です。

IBM 製品のサービスについては、サポート・オプションも含めて、<http://www.ibm.com/jp/pc/support/> にアクセスしてください。

ソフトウェア・サービスとサポート

IBM サポート・ラインを使用すると、@server および xSeries サーバー、IntelliStation ワークステーション、および各種装置の使用法、構成、およびソフトウェア問題について、有料で電話による援助を受けられます。それぞれの国や各地域でサポート・ラインによるサポートが対象となっている製品については、<http://www.ibm.com/services/sl/products/> で確認してください。

サポート・ラインおよびその他の IBM サービスについては <http://www.ibm.com/services/>、およびサポート電話番号については <http://www.ibm.com/planetwide/> を参照してください。

ハードウェア・サービスとサポート

ハードウェアのサービスについては、IBM Services、または IBM 販売店、あるいは IBM 特約店が保証サービスを提供します。サポート電話番号については、<http://www.ibm.com/planetwide/> を参照してください。米国およびカナダの場合は、1-800-IBM-SERV (1-800-426-7378) にお電話ください。

米国およびカナダでは、ハードウェア・サービスおよびサポートは、1 日 24 時間、週 7 日ご利用いただけます。英国では、これらのサービスは、月曜から金曜まで午前 9 時から午後 6 時までご利用いただけます。

付録 B. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

当版に関する特記事項

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Active Memory	Predictive Failure Analysis
Active PCI	PS/2
Active PCI-X	ServeRAID
Alert on LAN	ServerGuide
BladeCenter	ServerProven
C2T Interconnect	TechConnect
Chipkill	ThinkPad
EtherJet	Tivoli
e-business ロゴ	Tivoli Enterprise Update Connector
@server	Wake on LAN
FlashCopy	XA-32
IBM	XA-64
IBM (ロゴ)	X-Architecture
IntelliStation	Xcel4
NetBAY	XpandOnDemand
Netfinity	xSeries
NetView	
OS/2 WARP	

Intel、MMX、Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Adaptec および HostRAID は、Adaptec, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Red Hat、Red Hat 『Shadow Man』ロゴ、およびすべての Red Hat ベースの商標およびロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

サーバーの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

これらのサーバーの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。従ってそのサーバーを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。
ところがこのハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- 付属のリカバリー・プログラムを使い、工場出荷状態に戻す

などの作業をすすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にデータが消された状態ではありません。つまり、一見消去されたように見えますが、Windows® などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

従いまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このサーバーのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

サーバーの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して読めなくする、または、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）をご利用になられることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（オペレーティング・システム、アプリケーション・ソフトウェアなど）を削除することなくサーバーを譲渡すると、ソフトウェア・ライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

データ消去支援サービスまたは機器リサイクル支援サービスについての詳細は、弊社営業担当員または「ダイヤル IBM」044-221-1522 へお問い合わせ下さい。

重要事項

プロセッサの速度とは、マイクロプロセッサの内蔵クロックの速度を意味しますが、他の要因もアプリケーション・パフォーマンスに影響します。

CD-ROM ドライブ・スピードには、変わる可能性のある読み取り速度を記載しています。実際の速度は記載された速度と異なる場合があります、最大可能な速度よりも遅いことがあります。

主記憶装置、実記憶域と仮想記憶域、またはチャンネル転送量を表す場合、KB は約 1000 バイト、MB は約 1 000 000 バイト、GB は約 1 000 000 000 バイトを意味します。

ハード・ディスク・ドライブの容量、または通信ボリュームを表すとき、MB は 1 000 000 バイトを意味し、GB は 1 000 000 000 バイトを意味します。ユーザーがアクセス可能な総容量は、オペレーティング環境によって異なります。

内蔵ハード・ディスク・ドライブの最大容量は、IBM から入手可能な現在サポートされている最大のドライブを標準ハード・ディスク・ドライブの代わりに使用し、すべてのハード・ディスク・ドライブ・ベイに取り付けることを想定しています。

最大メモリーは標準メモリーをオプション・メモリー・モジュールと取り替える必要があります。

IBM は、ServerProven[®] に登録されている他社製品およびサービスに関して、商品性、および特定目的適合性に関する黙示的な保証も含め、一切の保証責任を負いません。これらの製品は、第三者によってのみ提供および保証されます。

IBM は、他社製品に関して一切の保証責任を負いません。他社製品がサポートされる場合、それを行うのは別会社であって、IBM ではありません。

ソフトウェアは、販売店によって異なる場合があります。ユーザー用マニュアルやすべてのプログラム機能が含まれているわけではない場合があります。

製品のリサイクルと廃棄

この装置には、回路ボード、ケーブル、電磁適合性ガasket、およびコネクタなどの部品が含まれており、それらは、製品寿命を終えた後の特殊な取り扱いと後処理を必要とする鉛や銅/バリリウム合金を含んでいる場合があります。この装置を廃棄する前に、それらの部品を取り外し、該当する規定に従ってリサイクルするか廃棄する必要があります。IBM では、いくつかの国で製品回収プログラムを提供しています。各国特有の手順については、

<http://www.ibm.com/ibm/environment/products/prp.shtml> の Web サイトを参照してください。

バッテリー回収プログラム

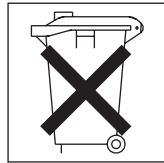
この製品には、密封された鉛酸、ニッケル・カドミウム、ニッケル水素、リチウム、およびリチウム・イオン・バッテリーが含まれている場合があります。特定のバッテリー情報については、お手元のユーザー・マニュアルまたはサービス・マニュアルを参照してください。バッテリーは、正しくリサイクルするか廃棄する必要があります。リサイクル施設がお客様の地域にない場合があります。米国以外でのバッテリーの廃棄については、

<http://www.ibm.com/ibm/environment/products/batteryrecycle.shtml> を参照するか、またはお客様の地域の廃棄物処理施設にお問い合わせください。

米国では、IBM 製品に付属の IBM 製の鉛酸、ニッケル・カドミウム、ニッケル水素などを使用した密閉型電池およびバッテリー・パックについて、再利用、リサイクル、または適切な廃棄のための回収プロセスがあります。これらの電池の処理に

については、IBM にお問い合わせください (1-800-426-4333)。電話で問い合わせをする前に、対象となる電池の IBM 部品番号を調べておいてください。

オランダでは、次の事項が適用されます。



電磁波放出の注記

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

電源コード

安全のために、IBM では IBM 製品に使っていただくための接地極付きプラグのついた電源コードを提供しています。感電事故を避けるため、常に正しく接地されたコンセントで電源コードおよびプラグを使用してください。

米国およびカナダで使用される IBM 電源コードは、Underwriter's Laboratories (UL) にリストされており、Canadian Standards Association (CSA) の認証を受けています。

115 ボルト用の装置には、次の構成の、UL 登録、CSA 認定の電源コードをご使用ください。最小 18 AWG、Type SVT または SJT、3 線コード、最大長 4.5 m (15 フィート)、平行ブレード型、15 アンペア 125 ボルト定格の接地端子付きプラグ。

230 ボルト (米国における) 用の装置には、次の構成の、UL 登録、CSA 認定の電源コードをご使用ください。最小 18 AWG、Type SVT または SJT、3 線コード、最大長 4.5 m (15 フィート)、タンデム・ブレード型、15 アンペア 250 ボルト定格の接地端子付きプラグ。

230 ボルト (米国以外における) 用の装置には、接地端子付きプラグを使用した電源コードをご使用ください。これは、装置を使用する国の安全についての適切な承認を得たものでなければなりません。接地端子付きプラグを使用した電源コードをご使用ください。これは、装置を使用する国の安全についての適切な承認を得たものでなければなりません。

特定の国または地域用の IBM 電源コードは、通常その国または地域でだけお求めいただけます。

IBM 電源コードの 部品番号	使用される国または地域
02K0546	China
13F9940	Australia, Fiji, Kiribati, Nauru, New Zealand, Papua New Guinea
13F9979	Afghanistan, Albania, Algeria, Andorra, Angola, Armenia, Austria, Azerbaijan, Belarus, Belgium, Benin, Bosnia and Herzegovina, Bulgaria, Burkina Faso, Burundi, Cambodia, Cameroon, Cape Verde, Central African Republic, Chad, Comoros, Congo (Democratic Republic of), Congo (Republic of), Cote D'Ivoire (Ivory Coast), Croatia (Republic of), Czech Republic, Dahomey, Djibouti, Egypt, Equatorial Guinea, Eritrea, Estonia, Ethiopia, Finland, France, French Guyana, French Polynesia, Germany, Greece, Guadeloupe, Guinea, Guinea Bissau, Hungary, Iceland, Indonesia, Iran, Kazakhstan, Kyrgyzstan, Laos (People's Democratic Republic of), Latvia, Lebanon, Lithuania, Luxembourg, Macedonia (former Yugoslav Republic of), Madagascar, Mali, Martinique, Mauritania, Mauritius, Mayotte, Moldova (Republic of), Monaco, Mongolia, Morocco, Mozambique, Netherlands, New Caledonia, Niger, Norway, Poland, Portugal, Reunion, Romania, Russian Federation, Rwanda, Sao Tome and Principe, Saudi Arabia, Senegal, Serbia, Slovakia, Slovenia (Republic of), Somalia, Spain, Suriname, Sweden, Syrian Arab Republic, Tajikistan, Tahiti, Togo, Tunisia, Turkey, Turkmenistan, Ukraine, Upper Volta, Uzbekistan, Vanuatu, Vietnam, Wallis and Futuna, Yugoslavia (Federal Republic of), Zaire
13F9997	Denmark
14F0015	Bangladesh, Lesotho, Macao, Maldives, Namibia, Nepal, Pakistan, Samoa, South Africa, Sri Lanka, Swaziland, Uganda
14F0033	Abu Dhabi, Bahrain, Botswana, Brunei Darussalam, Channel Islands, China (Hong Kong S.A.R.), Cyprus, Dominica, Gambia, Ghana, Grenada, Iraq, Ireland, Jordan, Kenya, Kuwait, Liberia, Malawi, Malaysia, Malta, Myanmar (Burma), Nigeria, Oman, Polynesia, Qatar, Saint Kitts and Nevis, Saint Lucia, Saint Vincent and the Grenadines, Seychelles, Sierra Leone, Singapore, Sudan, Tanzania (United Republic of), Trinidad and Tobago, United Arab Emirates (Dubai), United Kingdom, Yemen, Zambia, Zimbabwe
14F0051	Liechtenstein, Switzerland
14F0069	Chile, Italy, Libyan Arab Jamahiriya
14F0087	Israel
1838574	日本, Antigua and Barbuda, Aruba, Bahamas, Barbados, Belize, Bermuda, Bolivia, Brazil, Caicos Islands, Canada, Cayman Islands, Costa Rica, Colombia, Cuba, Dominican Republic, Ecuador, El Salvador, Guam, Guatemala, Haiti, Honduras, Jamaica, Mexico, Micronesia (Federal States of), Netherlands Antilles, Nicaragua, Panama, Peru, Philippines, Taiwan, United States of America, Venezuela
24P6858	Korea (Democratic People's Republic of), Korea (Republic of)
34G0232	日本
36L8880	Argentina, Paraguay, Uruguay

IBM 電源コードの 部品番号	使用される国または地域
49P2078	India
49P2110	Brazil
6952300	Antigua and Barbuda, Aruba, Bahamas, Barbados, Belize, Bermuda, Bolivia, Caicos Islands, Canada, Cayman Islands, Colombia, Costa Rica, Cuba, Dominican Republic, Ecuador, El Salvador, Guam, Guatemala, Haiti, Honduras, Jamaica, Mexico, Micronesia (Federal States of), Netherlands Antilles, Nicaragua, Panama, Peru, Philippines, Saudi Arabia, Thailand, Taiwan, United States of America, Venezuela

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- アクティビティ LED の送信/受信 9
- アテンションの注意事項 2
- イーサネット
 - 活動 LED 9
 - 構成 27
 - コネクタ 9
 - コントローラ 4, 27
 - システム・ボードに内蔵された 27
 - チーミング 27
 - ハイパフォーマンス・モード 27
 - モード 27
 - リンク LED 9
- イベント・ログ
 - 表示 17
 - リセット 17
- エラー・ログ 18
- オペレーター・パネル表示装置 7
- 音響放出ノイズ 3
- オンライン 資料 2

[カ行]

- 拡張スロット仕様 3
- 活動 LED
 - イーサネット 9
 - ハード・ディスク・ドライブ 7
 - CD-ROM ドライブ 7
- 環境
 - 湿度 3
 - 周囲温度 3
- 管理、システム 4
- 管理者パスワード 19
- 関連資料 1
- 危険の注記 2
- 機能
 - と仕様 3
 - RAS 5
 - ServerGuide 23
- 基本入出力システム (BIOS) コード、更新 21
- クリア CMOS (パスワード・オーバーライド) ジャンパ
ーの設定 19, 20
- ケーブル・コネクタ
 - イーサネット 9

- ケーブル・コネクタ (続き)
 - シリアル 10
 - 電源 9
 - ビデオ 9
 - ユニバーサル・シリアル・バス (USB) 8, 9
- 更新、ファームウェアの 28
- 構成
 - イーサネット 27
 - Configuration/Setup Utility 14
 - LSI Logic Configuration ユーティリティ 13
 - ServeRAID プログラム 13
 - ServerGuide を使用した 23
- コネクタ
 - イーサネット 9
 - シリアル 10
 - 電源コード 9
 - ビデオ 9
 - ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 9
 - USB 8, 9
- コンソール・リダイレクト
 - 構成 21
- コントロール
 - オペレーター・パネル表示装置 7
 - フロント 6

[サ行]

- サーバー Web サイト 1
- サービス・プロセッサ
 - 参照： ベースボード管理コントローラ
サイズ、サーバー 3
- 事項、重要な 2, 35
- システム管理
 - 参照： ベースボード管理コントローラ
- システム管理機能 5
- システム・エラー LED 8, 9
- システム・ロケータ LED 7
- 始動
 - Configuration/Setup Utility 14
 - LSI Logic Configuration ユーティリティ 26
- 始動パスワード 19
- ジャンパー、クリア CMOS (パスワード・オーバーラ
イド) 19, 20
- 重要事項 2
- 仕様 3
- 状況 LED
 - イーサネット 9
 - サーバー 8
 - ハード・ディスク・ドライブ 8

商標 34
情報 LED 7
シリアル・コネクタ 10
診断 CD 4
信頼性、可用性、保守容易性 (RAS) 機能 5
スーパーバイザー・パスワード 15, 19
セットアップ
 ServerGuide を使用した 23
前面図 6

[タ行]

対称多重処理 5
注意事項および注記 2
注意の注記 2
注記および注意事項 2
データ速度、イーサネット 27
電源
 コード・コネクタ 9
 サプライ、仕様 3
 制御ボタン 7
 LED 7, 9
電源コード 37
電源入力の仕様 3
電源を入れる、サーバーの 10
電源を切る、サーバーの 10

[ナ行]

内蔵機能 3
入出力コネクタ 6, 9
ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) の
 インストール 24

[ハ行]

ハード・ディスクのフォーマット 26
ハード・ディスク・ドライブ
 アクティビティ LED 7
 状況 LED 8
バイパスする、不明なパスワード 19, 20
背面図 9
パスワード
 オーバーライド 19, 20
 クリア CMOS ジャンパー 19, 20
 スーパーバイザー (管理者) 19
 ユーザー (始動) 19
パスワードのリセット 20
発熱量の仕様 3
ビデオ
 コネクタ 9
 コントローラ仕様 3

ファームウェアの更新 28
ベースボード管理コントローラ 4
 構成 17
 ファームウェアの更新 28
 LAN 接続の構成 29

[マ行]

マイクロプロセッサ
 仕様 3
 対称多重処理 (SMP) 5
メモリー
 コントローラ 5
 仕様 3, 4
 保護 4
モード、イーサネット 27

[ヤ行]

ユーザー・パスワード 19
ユーティリティ・プログラム
 ベースボード管理コントローラ・ファームウェア更
 新 28
 Configuration/Setup 14
 LSI Logic Configuration 26
ユニバーサル・シリアル・バス (USB)
 コネクタ 8, 9
 要件 8

[ラ行]

リセット・ボタン 7
リモート 管理アダプター II
 サポートされる PCI-X スロット 10
 システム管理機能 5
 電源を切る、サーバーの 11
リモート管理アダプター II
 電源を入れる、サーバーの 10
 パスワードへの影響 16
リモート・コンソール
 参照: Console Redirection
リンク LED 9
ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 4
ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) コネクタ 9

[ワ行]

忘れられたパスワード、バイパスする 19, 20

B

BIOS コードの更新 21

C

CD イジェクト・ボタン 7

CD-ROM ドライブ

アクティビティ LED 7

仕様 3

CD イジェクト・ボタン 7

Configuration/Setup Utility プログラム 13, 14

Console Redirection

に関する 17

G

Gigabit Ethernet コネクター 9

I

IBM Director 4

IBM 拡張診断 CD 4

L

LED

アクティビティ 9

オペレーター・パネル表示装置 7

システム・エラー 8, 9

システム・ロケーター 7

情報 7

電源 7, 9

ハード・ディスク・ドライブのアクティビティ 7

ハード・ディスク・ドライブの状況 8

背面 9

フロント 6

リンク 9

CD-ROM ドライブ・アクティビティ 7

LSI Logic Configuration ユーティリティ・プログラム

始動 26

説明 26

ハード・ディスクのフォーマット 26

目的 13

N

NOS インストール

ServerGuide を使用した 23

S

ServeRAID プログラム 13

ServerGuide

機能 23

使用 22

NOS インストール 23

ServerGuide CD 4

SMP 5

W

Web サイト

IBM サーバー製品 1

IBM サポート 21

ServerGuide 22

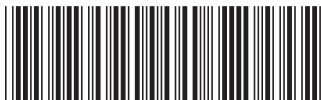


部品番号: 25R6731

Printed in China

古紙配合率 100% の再生紙を使用しています。

(1P) P/N: 25R6731



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12